

第20期（2025年3月期） 決算説明資料

2025年6月11日



阪神高速道路株式会社

当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 **2,605億円**（前年同期比＋77億円）、
営業利益 **21億円**（前年同期比▲19億円）、経常利益 **28億円**（前年同期比▲14億円）、
親会社株主に帰属する当期純利益は **24億円**（前年同期比▲0.8億円）となりました。
事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

高速道路事業

- ◆ **料金収入**は1,853億円（前年同期比4.0%増）
※通行台数増加及び近畿圏の新たな高速道路料金の導入による影響等により、前年同期を上回りました。
- ◆ **道路資産完成高**は558億円（前年同期比6.9%増）
- ◆ **道路資産賃借料**は1,355億円（前年同期比3.3%増）
- ◆ **管理費用**は483億円（前年同期比7.9%増）
- ◆ この結果、
営業収益は2,419億円（前年同期比4.6%増）
営業費用は2,410億円（前年同期比5.5%増）
営業利益は9億円（前年同期比65.9%減）
となりました。

受託事業

- ◆ 国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の事業を受託したことにより、
営業収益は121億円（前年同期比21.1%減）
営業費用は122億円（前年同期比20.9%減）
- ◆ この結果、**営業損失**は76百万円
（前年同期は営業損失67百万円）となりました。

その他（関連）事業

- ◆ 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、
営業収益は68億円（前年同期比5.6%増）
営業費用は56億円（前年同期比7.5%増）
- ◆ この結果、**営業利益**は11億円
（前年同期比2.5%減）となりました。

高速道路事業

単位：億円〔単位未満切捨て〕

主な増減内容

区 分		2025年3月期	2024年3月期	増減
営業収益	料金収入	1,853	1,782	+ 70
	道路資産完成高 (注)1	558	522	+ 35
	その他売上	7	7	+ 0
		2,419	2,312	+ 107
営業費用	道路資産賃借料	1,355	1,312	+ 42
	道路資産完成原価 (注)1	571	523	+ 48
	管理費用	483	447	+ 35
		2,410	2,283	+ 126
高速道路事業 営業利益 (注)2		9	29	▲ 19

- 営業収益
 - ・通行台数が増加し、一日当たり約72.6万台（前年同期比1.7%増）
 - ・料金収入は1,853億円（前年同期比70億円増）
 - ・道路資産完成高は、大規模修繕事業等の工事の完成により、前年同期比35億円増の558億円

- 営業費用
 - ・協定に基づく道路資産賃借料は、前年同期比42億円増の1,355億円
 - ・管理費用は、前年同期比35億円増の483億円

- (注) 1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。
- (注) 2 高速道路事業の営業利益には、高速道路事業の利益剰余金を活用した、安全対策やサービス高度化に資する事業に伴う損失が含まれております。

関連事業

単位：億円〔単位未満切捨て〕

主な増減内容

区 分		2025年3月期	2024年3月期	増減
受託事業	営業収益	121	154	▲ 32
	営業費用	122	155	▲ 32
	営業利益（▲損失）	▲ 0	▲ 0	▲ 0
その他（関連事業）	営業収益	68	64	+ 3
	営業費用	56	52	+ 3
	営業利益	11	12	▲ 0
関連事業 営業利益		11	11	▲ 0

●受託事業

大阪市道高速道路淀川左岸線に係る工事出来高の減等により、営業収益は前年同期比32億円減の121億円、営業費用は前年同期比32億円減の122億円となり、営業損失は76百万円（前年同期は営業損失67百万円）

●その他（関連）事業

休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、営業収益は前年同期比3億円増の68億円、営業費用は前年同期比3億円増の56億円となり、営業利益は11億円（前年同期比0.3億円の減）

当期連結財務諸表の概要

単位：億円〔単位未満切捨て〕

連結貸借対照表

区 分	2025年3月期	2024年3月期	増減
資産の部	2,983	2,501	+481
流動資産	2,450	1,977	+473
(うち仕掛道路資産)	1,246	1,043	+202
固定資産	532	524	+8
負債の部	2,309	1,875	+433
流動負債	404	474	▲ 70
固定負債	1,905	1,400	+504
純資産の部	673	625	+48
株主資本	657	632	+24
資本金	100	100	-
資本剰余金	105	105	-
利益剰余金	451	427	+24
その他の包括利益累計額	16	▲ 7	+23

連結損益計算書

区 分	2025年3月期	2024年3月期	増減
営業収益	2,605	2,528	+77
営業費用	2,584	2,487	+97
営業利益	21	40	▲ 19
営業外収益	7	1	+5
営業外費用	0	0	▲ 0
経常利益	28	42	▲ 14
特別利益	0	0	+0
特別損失	0	0	+0
税金等調整前当期純利益	27	41	▲ 14
法人税等	3	16	▲ 13
親会社株主に帰属する 当期純利益	24	25	▲ 0

2026年3月期 連結業績の見通し

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2026年3月期 見通し	2025年3月期 実績	増減
営業 収 益	高速道路事業	3,385	2,419	+ 965
	料金収入	1,846	1,853	▲ 7
	道路資産完成高 (注)1	1,538	558	+ 980
	その他売上	0	7	▲ 7
	その他（関連）事業	134	190	▲ 55
		3,520	2,605	+ 914
営業 費 用	高速道路事業	3,375	2,410	+ 965
	道路資産賃借料	1,347	1,355	▲ 8
	道路資産完成原価 (注)1	1,539	571	+ 968
	管理費用	488	483	+ 5
	その他（関連）事業	126	179	▲ 52
		3,502	2,584	+ 917
営業 利 益	高速道路事業 (注)2	9	9	▲ 0
	関連事業	8	11	▲ 2
		17	21	▲ 3
経 常 利 益		10	28	▲ 17
税金等調整前当期純利益		10	27	▲ 16
法 人 税 等		5	3	+ 2
親会社株主に帰属する当期純利益		5	24	▲ 19

連結業績の見通し

親会社株主に帰属する当期純利益は、親会社の損失3億円に連結子会社の利益等9億円を加えた5億円となる見通しです。

なお、連結業績の見通しのうち、親会社の見通し額は国土交通大臣から認可を受けた令和7年度（2025年度）事業計画に基づいています。

(注) 1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

2 高速道路事業の営業利益には、高速道路事業の利益剰余金を活用した、安全対策やサービス高度化に資する事業に伴う損失5億円が含まれております。

3 2026年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

2026年3月期 個別業績の見通し

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2026年3月期 見通し	2025年3月期 実績	増減
営業 収 益	高速道路事業	3,385	2,412	+ 972
	料金収入	1,846	1,853	▲ 7
	道路資産完成高 (注)1	1,538	558	+ 980
	その他売上	-	0	▲ 0
	その他（関連）事業	82	133	▲ 51
		3,467	2,546	+ 921
営業 費 用	高速道路事業	3,382	2,421	+ 960
	道路資産賃借料	1,347	1,355	▲ 8
	道路資産完成原価 (注)1	1,539	571	+ 968
	管理費用	495	494	+ 0
	その他（関連）事業	79	131	▲ 51
		3,462	2,553	+ 909
営 業 利 益 （ ▲ 損 失 ）	高速道路事業 (注)2	2	▲ 9	+ 11
	その他（関連）事業	2	1	+ 0
		4	▲ 7	+ 12
経 常 利 益（▲損失）		▲ 2	5	▲ 7
税引前当期純利益（▲損失）		▲ 2	4	▲ 7
法 人 税 等		1	▲ 5	+ 7
当 期 純 利 益（▲損失）		▲ 3	10	▲ 14

個別業績の見通し

営業収益は、3,467億円
 （前年実績比921億円増）
 営業利益は、4億円
 （前年実績は営業損失7億円）
 当期純損失は、3億円
 （前年実績は当期純利益10億円）
 となる見通しです。

なお、見通し額は国土交通大臣から
 認可を受けた令和7年度（2025年度）
 事業計画に基づいています。

(注) 1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の
 高速道路機構への引渡額をいい、
 道路資産完成原価とは、当該道路資産の
 建設に要した費用をいいます。

2 高速道路事業の営業利益（営業損失）には、
 高速道路事業の利益剰余金を活用した、
 安全対策やサービス高度化に資する
 事業に伴う損失5億円が含まれております。

3 2026年3月期の業績見通しには、
 不確定な要因を含んでおり、将来の
 業績等を保証するものではありません。
 実際の業績等については、様々な
 要因により変化するものであることを
 ご承知おき下さい。

グループ経営体制

(2025年3月31日時点)



【交通管理】

阪神高速パトロール(株)

【保全点検・維持修繕】

阪神高速技術(株)

内外構造(株)

(株)情報技術

(株)テクノ阪神

(株)ハイウェイ管制

阪神施設調査(株)

【調査・設計・積算等】

阪神高速技研(株)

(株)阪神 e テック

阪神高速道路(株)



【関連事業】

(休憩所・駐車場・集客施設運営等)

阪神高速サービス(株)

(事業者支援コンサルティング事業)

阪高プロジェクトサポート(株)

(タイ国における公共インフラ等維持管理事業)

(持分法非適用関連会社)

エイサイアム・インフラ

ASIAM Infra Co., Ltd.



【料金収受】



阪神高速トール大阪(株)

阪神高速トール神戸(株)

2024年度の主なトピックス

1. 近畿圏の新たな高速道路料金の導入

* 2024.6.1(土)午前0時より近畿圏の新たな高速道路料金として、対距離制を基本とした公平な料金体系の更なる前進に向け、新たな上限料金を設定し、高速道路をさらに効率的にご利用いただくための割引を導入・拡充しました。

新料金の概要

* 料金体系の整理・統一

- ・対距離制を基本とした公平な料金体系の更なる前進に向け、新たな上限料金を設定。
- ・料金割引についても、整理・統一を図る観点等から、大口・多頻度割引の拡充や深夜割引を導入。

* 起終点を基本とした継ぎ目のない料金の実現

- ・都心迂回経路の利用が料金の面で不利にならないよう、起終点間の最短距離を基本に料金を決定する都心迂回割引を導入。

2024年度の主なトピックス

2. ミッシングリンク解消に向けたネットワーク整備

* ミッシングリンクの解消に向け、淀川左岸線（2期）（海老江JCT～豊崎）、淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド北～駒栄）及び**名神湾岸連絡線**の整備推進に努めました。



橋脚工事の実施状況



東西交通の分散化

大阪都市再生
環状道路



トンネル本体工事の実施状況



換気所建物の完成状況



ランプ部舗装工事の完成状況

2024年度の主なトピックス

3. 高速道路リニューアルプロジェクトによる長寿命化の推進

* お客さまに最高の安全と安心を提供するため、構造物の長寿命化に向けた高速道路リニューアルプロジェクト（大規模更新・修繕事業）を推進しました。

【大規模更新事業】 **14号松原線喜連瓜破付近**で橋梁架け替え工事が**完了**しました。15号堺線湊町付近において、工事を推進しました。

【大規模修繕事業】 16号大阪港線（西行）阿波座付近において、縦目地構造の解消に向けた工事が**完了**しました。

4号湾岸線（大浜～泉大津）において終日通行止めによるリニューアル工事を実施しました。

■喜連瓜破付近の橋梁架け替え工事

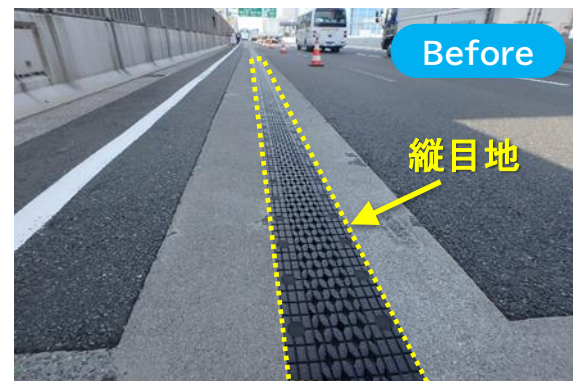


▲中央径間部を夜間に一括架設(2024年9月)



▲通行再開後の状況(2024年12月7日)

■阿波座付近の縦目地構造解消工事



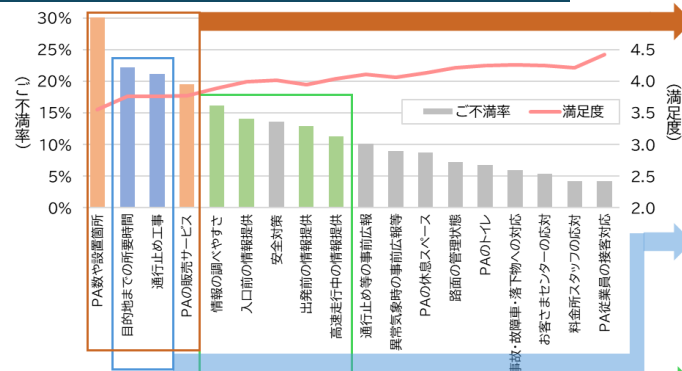
▲路面の一体化により縦目地を解消しました

2024年度の主なトピックス

4. お客さま満足向上の取組

* お客さまに安全・安心・快適を実感していただくため、「お客さま満足度調査」の結果を整理分析のうえ、お客さま満足アッププラン2024を作成し、様々な取組を実施しました。

お客さま満足度調査(2023年度)調査結果



パーキングエリア(PA)の改善

- ・泉大津PA大型駐車マス拡充
- ・PAコンシェルジュカウンターの美装化
- ・トイレのバリアフリー改修
- ・デジタルサイネージの展開

渋滞対策

- ・大阪・関西万博期間中の交通需要増加への対応
- ・速度回復誘導灯
- ・長期休暇渋滞予測

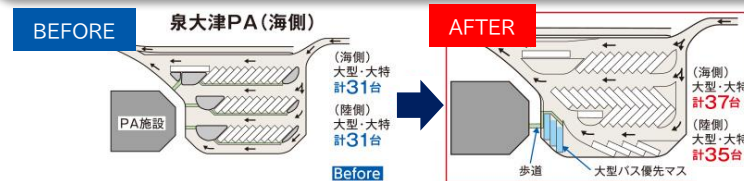
情報提供の充実

- ・LINE公式アカウント運用開始
- ・料金検索システムの統合
- ・HPリニューアル
- ・Xによるお得情報等の充実

パーキングエリア(PA)の改善

泉大津PA大型駐車マス拡充

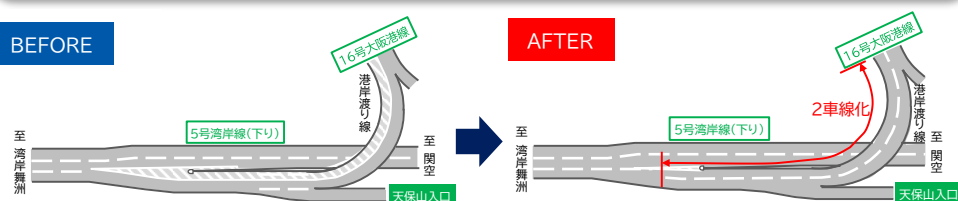
2024年4月、泉大津PA(海側・陸側)3階の大型車専用駐車場の区画線を変更し、大型車駐車マス数の拡充を図りました。また、大型バス優先マスをPA施設に隣接して配置することで、車道を横断することなくご利用いただけるようになりました。



渋滞対策

大阪・関西万博に関する交通需要増加への対応

万博開催期間中に交通集中が想定される北港JCT湾岸舞洲出口や天保山JCT渡り線において交通容量拡大対策(2車線化)を実施しました。これにより舞洲関連事業(万博及びIR)の工事車両による混雑等影響を緩和し、一般交通の円滑な交通確保に努めました。



【天保山JCT渡り線】

万博会場方面への交通量増に対応するため、容量拡大(2車線化)を実施しました

情報提供の充実

LINE公式アカウント運用開始

災害時などの緊急情報のほか、阪神高速の各種情報を手軽に入手できる「阪神高速LINE公式アカウント」の運用を開始しました。おかげさまで4万人を超えるお客さまに、友だち追加していただきました！(2025.5現在)



2024年度の主なトピックス

5. 関連事業の展開

- * 阪神高速グループにおいてこれまで培ってきた技術・ノウハウを活用し、**周辺の自動車専用道路等の一体的管理、構造物点検、補修業務や海外事業を含む技術・補償コンサルティング事業**を実施しました。
- * 社会のニーズに応えるため、高架下の道路空間等を有効に活用した**駐車場事業**、お客さまサービス向上を目指した**休憩所事業**、保有資産の有効活用をはじめとした**不動産事業**等を展開しました。

〔高速道路の維持管理等の技術・ノウハウを活かした事業展開〕

- 地方公共団体が管理する道路橋等の耐震補強設計業務や点検業務を受注
- 道路や鉄道など公共インフラの用地取得支援業務を地方公共団体等から受注

〔周辺の自動車専用道路等の一体的管理受託〕

- 大阪港咲洲トンネル・夢咲トンネル（大阪市）の管理運営を受託

〔休憩所事業の展開〕

- PAにおいて、レストラン・売店を運営。一部の無人PAにおいては、自販機コンビニを設置し、お客さまへ軽食の提供を実施
⇒中島パーキングエリア（泉佐野方面行）を新たにオープン



中島パーキングエリア（泉佐野方面行）
外観



自販機コンビニ

〔海外事業の展開〕

- アジア、アフリカを中心にJICA等からの国際コンサルティング業務を実施
- タイ国関連会社「ASIAM Infra」において、公共インフラ等の包括的な維持管理業務を展開中

〔道路空間や資産の有効活用〕

- 駐車場事業：高架下等の約300箇所でも月極・時間貸駐車場を展開
⇒ 月極駐車場等の空枠をアプリで事前に予約して利用できる
駐車場予約サービス「リザパー」を展開中
- 不動産事業：賃貸住宅事業や事業用定期借地等を展開



駐車場予約サービス「リザパー」



阪高ファインパーク信濃橋第1
（阪神高速高架下）

◆本資料には将来の予測や見通しに関する記述が含まれておりますが、こうした記述は将来の業績等を保証するものではありません。将来の業績等は経営環境の変化などにより、目標と異なる可能性があることにご留意下さい。

【お問い合わせ】



阪神高速道路株式会社 経理部経理課

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト

TEL: 06-6203-8888(代)

FAX: 06-6203-8313

URL: <https://www.hanshin-exp.co.jp>